

令和元年度第2回国立市立学校給食センター運営審議会

令和元年8月26日

【向井会長】 定刻になりましたので、これより令和元年度第2回国立市立学校給食センター運営審議会を開始いたします。

皆様、こんにちは。前は、お疲れさまでした。今日は、エアコンもきいて、涼しいところで審議ができることをありがとうございます。

本日は、ほんとうにお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。出欠席の状況ですけれども、一小的福山委員、三小的南委員、学校医代表の七条委員、日本獣医生命科学大学の牛島委員が欠席との連絡をいただいております。それから、八小的伊東委員ですが、遅れて出席されるということです。よろしく願いいたします。

では、まず資料の確認をしたいと思います。事務局よりお願いいたします。

【事務局】 本日は、ご多忙の中、また、猛暑の中、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。

また、日ごろより学校給食事業にご理解とご協力をいただき、深くお礼申し上げます。

それでは、議事に先立ちまして資料の確認をお願いいたします。

事前に郵送いたしました運営審議会次第、資料1の令和元年度各市の給食費状況、資料2としてA4判で3枚ものになりますが、平成17年度、平成26年度、そして、平成31年度の4月分小学校給食予定表年間予定について、また、参考といたしまして前回の運営審議会でお示しいたしました学校給食費の改定案についてと、明日8月27日付けになりますが、今、給食費の改定を審議会で審議しているということの保護者へのお知らせ文案も添付しております。最後に、席次表、これは本日、机上に配付させていただいております。過不足等はございますでしょうか。

ありがとうございます。以上です。

【向井会長】 では、議題に移ります。議題1、学校給食費の改定案についてです。それでは、(1)の学校給食費改定案について各委員にご審議いただきます。

まず、事務局から配付された資料と審議の進め方についての説明をお願いします。

【事務局】 まず、前回の運営審議会においてご質問のありましたビン牛乳の地震対策についてでございますが、前回の審議会の終了後、すぐに納入業者に確認いたしました。

落下衝撃に耐えられるような工夫はしているかとの問いに対して、ビンは破損に備えて

外表面にコーティングを施してあるとのことでもございました。

事務局でも実際にビンが落下したらどうなるのかを検証してみました。高さ50センチ程度から床に落としてみたのですが、ビンをそのまま飲み口を上にした場合と逆さまに飲み口を下にして落とした場合は割れることはございませんでした。しかし、横向きに落とした場合は割れてしまいました。

今、考えられる対策といたしましては、喫食中に大きな揺れを伴う地震発生時には、例えば飲みかけでもランチ皿の中に横に倒して落下を防ぐことが効果的かと考えております。

万が一に備えての大変貴重なご質問をいただき、まことにありがとうございました。

それでは、事前に配付いたしました資料について要点を絞ってご説明いたします。

初めに、このたびの資料1及び2については、前回の審議会の最後に、会長より各委員に今後の検討材料として資料作成の要望がある場合は、事務局に依頼していただきたい旨のご発言がございましたが、特段、各委員より資料作成の依頼はございませんでした。

したがって、事務局のほうで皆様が検討する上で参考となりそうな資料を独自に作成したものが資料1となります。

資料1につきましては、令和元年度の多摩地区26市の給食費の状況になります。

ごらんのように、国立市は、小学校、中学校を通じておおむね4番目から7番目に低い費用負担となっております。

この表でご注意いただきたいことは、26市の中には、国立市と同様に単独でビン牛乳を採用している市もございます。ビン牛乳は多くの市が採用している東京都の学校給食会を通じての紙パックより1ビン当たり約3円高くなっております。

また、給食費の一部を公費負担している市がごく一部ですがございます。ですので、この金額が一概にビン牛乳以外の食材を購入している費用と相関関係にあるとは言えないところでございます。

また、この表に基づき、仮に国立市が給食費の改定を行い、他の25市が給食費の改定をしなかった前提で申し上げますと、パターンAですと小学校では全学年で26市平均を若干、上回る費用額の設定となり、中学校は平均よりも下回る費用額となります。

パターンBですと小学校高学年を除き、全ての学年で平均よりも下回る費用額の設定となります。

ただ、これは先ほど申し上げましたとおり、他市が来年度に向けて給食費の改定をしない前提でご説明したものであり、既に8月の段階で10市以上が来年度、令和2年度に向けて

給食費を改定する、あるいは改定を検討しているとのことでございます。

各市の詳細な改定額については不明でございますが、26市の平均が上がることも念頭に入れていただければと存じます。

最後に、資料の一番右側の中学校における給食費の表でございますが、下段に記載されております4市について、弁当併用外注方式を採用している自治体のため、給食費は載せてございません。

資料1については以上でございます。

続きまして、資料2でございますが、こちらは今回お示ししております2つのパターンの試算について、その当時の4月の小学校における給食予定表でございます。

近年、国を挙げて米飯給食が推奨されていることから、平成17年度と比べ、平成31年度は主食に米を材料としているものが多くなっている傾向が感じられます。

また、同じ米を材料としても、平成17年度はタケノコご飯やかやくご飯など、米以外の材料も加えたものが一定程度ございましたが、年次を追って白飯の割合が多くなっている状況でございます。

献立名をごらんいただくと、異なる3つの年度を比較して、デザート的なものが提供される頻度も減少傾向にあります。

次に、主な材料の欄も、種類数に年次により若干の変化があることがわかります。

最後に、表の一番右側のエネルギーとたんぱく質においては、平成17年度は平成26年度、平成31年度と比較して平均で一番高いカロリーやグラム数であることが見てとれます。

ちなみに、前回の審議会において委員からのご質問に対しましてお答えいたしました、昨年8月に改正された新しい学校給食摂取基準、小学校中学年になりますが、では、エネルギーについては650キロカロリーが基準とされております。

資料2についての補足説明は以上となります。

それでは、皆様による審議の進め方についてご提案でございます。

今、ご説明いたしました資料も参考にしつつ、事務局といたしましては、現時点ではありますが、委員お一人お一人がお持ちになられている2つのパターンに対するご意見や事務局に対するご質問、また、皆様に論ずべき論点等がございましたら、ぜひご発言いただければありがたいと考えております。

よろしく願いいたします。以上です。

【向井会長】 それでは、今、ご説明いただきました資料をもう一度ごらんになって、すぐお話してくださいだとちょっと大変かと思imasので、少し読み込む時間をとりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

今の説明でご質問があったら先にお受けしますがいかがですか。

じゃあ、各市の給食費の状況、それから、献立表の1か月分が3年分、それと、あと給食費の改定案の参考資料を見ながら、委員の皆様のご意見やご要望、それから、これから議論すべき論点等がありましたらお聞かせいただきたいと思imas。少し時間をとります。

(資料の読み込み中)

【向井会長】 それでは、今、読んでいただいている途中かとは思imasが、もしご質問等がありましたらその場で述べていただいて結構ですので、学校給食費の改定案についての議題にのっってご意見、ご要望等をお話しいただきたいと思imas。

すみません、井原委員からお願いしてよろしいですか。

【井原委員】 二小の井原です。牛乳ビンについて調べてくださってありがとうございます。

子供たちには、ビンを地震が起きたときにトレーに乗せるとか、そういう指導はこれから入ってくるのでしょうか。

【事務局】 まだ案の段階で、つい最近、事業者から答えをいただいたものですから、今後、もっといいこともあるかもしれないのですが、今のところこれかなと思imasので、例えば学校の給食審議会の中でお知らせとか、そういう中でやっていければなどは思imas。

【井原委員】 ありがとうございます。給食費の改定案についてなんですけれども、AとBで月額100円ほど違うと思うのですが、この100円の違いで、この650キロカロリーというエネルギー量が文科省から出ているという、今、お話があったのですが、それはどちらも満たされるものなのでしょうか。

【事務局】 今、皆様にお示ししています4月の献立なのですが、その4月で見ますと、平成17年度ですとカロリーは666キロカロリーということが平均で出ておimas。

平成26年度のほうが654キロカロリーと出ているので、カロリー650キロカロリーはクリアしているかなという形になります。

逆に、平成31年度ですと645キロカロリーということで、650キロカロリーを割り切っているという状況でございます。

【井原委員】 値上げをするとそのカロリーは必ず満たされるという感じになるんじゃないか。

【事務局】 カロリー以外にも各栄養素があるんですが、基本的には、これを献立の段階で満たしていくということで値上げをさせていただく形になりますので、それはクリアできるかと思っています。

【井原委員】 ありがとうございます。以上です。

【向井会長】 ありがとうございます。それでは、神尾委員、お願いいたします。

【神尾委員】 国立四小の神尾です。改定案について単純にパターンAとBのメニュー、内容を比較させていただいたところ、この例だけではないと思うのですが、カロリーが上がったあげく、プラス内容は一品増えるだとか、そういった単純なことではなくて、栄養素的にバランスのとれたものになる予定で考えていかれるのでしょうか。

【事務局】 はい。学校栄養摂取基準は、エネルギーもそうなんですけど、ビタミンAとかビタミンB1とかという各栄養素もございますので、こちらもある意味バランスのとれた各栄養素を取り入れていくという形で基準を満たしていきたいというふうに思っておりますので、何か一つエネルギーだけとか、たんぱく質だけというわけではなくて全て総合的に勘案して、例えば彩りなんかも、今、暗いイメージがあるとよく小学校の皆さんからも言われてしまうのですが、バラエティーに富んだものとかという形が、今後の献立ではできるのかなとは思っております。

【神尾委員】 ありがとうございます。あともう1点なんですけども、ちょっと我が子にアレルギーがあるという点で一つ気になったのが、給食費が値上げされるに伴って、デザート的なものがちょっと増えるんじゃないかなとか、あと、洋食的な、単純にカロリーが増えると、卵、乳製品はすごく多いと思うんですが、その辺は現時点でアレルギーの子、次にアレルギーの施設ができるまでの間、まだ年数があると思うんですけども、それは特に考慮はなく、単純にメニューはカロリーと栄養素で考えていく方向と思ってよろしいでしょうか。

【事務局】 まだ給食センターが旧式なものですから、調理場が、アレルギー対応食、アレルギーに完全に対応しているわけじゃないので、そこはほんとうに申しわけないと思っています。

給食に関しましては、基本的には先ほど申しました栄養の観点、適切な栄養の摂取を当然最初に考え、例えば旬の食材なんかを使用することもやりつつ、国の施策であります米飯給

食の拡大という部分もございます。

それでなおかつ、児童や生徒の嗜好に合った献立を考えつつも、苦手な食材を克服する給食も考えていかななくてはいけない。そういうようなものを総合的に勘案しながら、今、お願いしている給食費の改定につきましては、質を向上させるという目的ではなくて、質の低下が否めないところを平成17年、あるいは平成26年当時の質を維持するという部分なので、先ほど申しましたデザートは必ずできるとか、1品増えるとかということはお約束はできないところではあります。基本的には、今、5つぐらい申しあげましたかね、その辺のところを、力を充実していきたいなというふうには思っております。

【神尾委員】 ありがとうございます。以上です。

【向井会長】 ありがとうございます。それでは、村上委員、お願いいたします。

【村上委員】 五小の村上です。よろしくお願いします。

私は、Aパターン、Bパターン、どちらも上がることには変わらないので、どちらがいいということではないのですが、ただ、ご用意していただいたこの資料を見る限りでも、平成17年度に比べて平成31年度、カロリーももちろんそうなんですけど、メインのたんぱく質量に差があるように単純に見えるんですね。

それは、多分、私たちの家での食事づくりでもそうですけど、魚、肉は、やっぱりメインのものは値段が上がっているのを抑える傾向にあるのが、給食でもその影響もあるのかなと感じます。

なので、給食でたんぱく質、メインがどんどん減っていってしまう。野菜とかも大事なんですけど、メインが少し金額を上げることによって、子供たちもやっぱりメインのものは好きな子も多いと思うので、逆に今の白いご飯を食べない子も多かたりもするかと思うので、その部分が充実に向かうのであればパターンAでもパターンBでも賛成だなと思っております。

【事務局】 平成17年度4月分の給食の4月8日の金曜日の献立名のところに、エビフライ2本とあるかと思えます。実は、このときエビフライは1本36円でした。それが平成29年度は1本88円に値上げりしてございます。ですので、高価になって中学校だったら提供できるかもしれないんですけど、小学校ではもうちょっと使用することができないかなというぐらいの物価が上がっているということで思っただけだと思います。

以上です。

【村上委員】 ありがとうございます。

【向井会長】 ありがとうございます。それでは、伊藤委員、お願いします。

【伊藤委員】 六小の伊藤です。よろしくお願いします。

私は、改定案のAとBと見る限りでは、どちらも上げるのであればしょうがないなど。しょうがないというか、こういうご時世なので仕方がないと思うので、子供たちには育ち盛りなのでやっぱり好きなものとか、好き嫌いをなくすような感じのメニューでも工夫して提供していただけたらと思いますので、それをお願いしたいと思います。

よろしくお願いします。

【向井会長】 ありがとうございます。次に、久保委員、お願いしてもよろしいでしょうか。

【久保委員】 国立第七小学校の久保です。よろしくお願いします。

パターンAとパターンBがあって、どちらも8%の消費税分を含むというか、8%の消費税という形で合わせているんですけど、今回、10%になるに当たって、この8%分というので正直、足りているのかどうかというところについてはいかがでしょうか。

【事務局】 今回、一応、それも鑑みております。今年の10月、10%に引き上げられる予定である消費税の改定も含めて、あと、これを実際に深く検討したのは昨年度の平成30年度に給食費の改定というのを検討してしまして、もうその時点で10月の消費税の分も含まれておりますので、基本的にこれは10%になることを織り込んだ金額と見ていただければいいかなと思っております。

【久保委員】 ありがとうございます。

【向井会長】 じゃあ、内田委員、お願いいたします。

【内田委員】 八小の内田委員です。前の委員さんとちょっと質問が重複してしまうかと思うんですが、今、おっしゃられた物価の上昇による値上げは仕方ないと思うのですが、栄養のバランスをよくしようと思つての値上げもあると思うので、パターンA、Bの値上げぐらいで大丈夫なのでしょうか。

【事務局】 ありがとうございます。先日、最初の改定案をご説明したときに、消費者物価指数、食材の関係、平成29年は101.9になっていますというお話をさせていただきました。

つい最近、直近の去年、平成30年度の消費者物価指数が出まして、103.4と出たんですね。やはり物価上昇が年々で上がっているというのは否めないというところでござい

ます。

今回、こういう形で改定案を出させていただいているのですが、当然、各市の状況を見ると、何年というのはあれなんですけど、適宜、物価上昇やあるいは献立の充実などを考慮して、各市とも給食費の改定を適宜行っているそうなので、国立市といたしましても、今回、こういう形でお出ししているのですが、今、思えば、過去14年間1回も改定をしていなかった国立市ですので、次に改定をするとしても、かなり慎重に、行うのかなと思っております。

ですので、できれば、例えば今年、来年度に向けての給食費の改定をやったら、また2年後に改定をするかどうか考えるという部分よりは、もうちょっとスパンをあけるべきなのが国立市なのかなと思っておりました、金額は何とも言えないですけどということで、できれば、規模としては事務局として見れば、少なくとも三、四年は改定はしないということできたいなとは思っております。

【向井会長】 よろしいでしょうか。それでは、有馬委員、お願いいたします。

【有馬委員】 一中の有馬です。よろしくお願いいたします。

今のお話にもあったのですけれども、14年間、今まで給食費を改定していなかったところ、来年度上がるということで、もしパターンBの場合だと、少なくとも三、四年と今、おっしゃっていましたが、三、四年後にまた上げざるを得ない状況にならないのかなということちょっと不安に思ったことと、改定する、審議するだけでやっぱり経費もかかりますので、1回上げると、やっぱり最低三、四年、もう少し上げないでずっと同じ給食費を維持できるようにしたほうがいいのではないかなと思います。

その場合、B案だと大丈夫なんでしょうか。

【事務局】 こればかりは、将来的な物価の関係もありますので、どう物価が、もしかしたら下がるかもしれないですし、何とも言えないですけど、今、いただきましたそういう長い目を考えたら、確かに、過去から見れば物価が下がることはあまり考えられないので、徐々に上がっていく傾向にはあるかと思えます。

その中で、委員がおっしゃったのはA案の方がいいという話だったんですが、これは皆様のご審議をいただいて、A案、B案、のうち、皆様の議論の中で給食の質の維持というところを、子供たちの生活や子供たち本位、子供たちの命にかかわる問題だと私は思っておりますので、それを鑑みて議論いただいて、A案かB案、どちらかで決めていただければありがたいなと思っております。

【有馬委員】 わかりました。ありがとうございました。

【向井会長】 ありがとうございました。それでは、西村委員、お願いいたします。

【西村委員】 三中の西村です。よろしくお願いします。

まず、お伺いしたいのですけれど、4月から低温殺菌牛乳に変わりましたというのが平成17年に書いてありまして、今回、A案とB案についてちょっと検討されているのかなと思っただのですが、この牛乳補助金カット分というのがB案のほうに入っていますけれど、これはビン牛乳を使うことによって、多分、1回、説明を受けていると思うんですが、ビン牛乳を購入することによって出ている補助金というふうな理解でよろしいですか。

【事務局】 出ていた補助金については、現在、打ち切られております。これは、国のほうの補助金だったんですが、たしか平成29年で終わっているんですね。以前はあったんですけど、今はない状態です。

【西村委員】 じゃあ、今、現状で補助金はカットされているんですか？

【事務局】 牛乳補助金ですか。

【西村委員】 はい。

【事務局】 牛乳補助金は国の制度ではなくなりました。ですので、今、皆様からいただいている給食費で54円ですか、これを賄っているという話になります。

【西村委員】 何か先ほどもお話があったように、例えば値上げ率をすごく少なくしたら、またその次の値上げまでのスパンというのはほんとうに短くなってくると思うんですけれど、値上げもしてさらにビンじゃなくなってという、消費する側からするとあっちもこっちもなの？ みたいな感じがあるので。

例えば、A案だったら値上げ率はちょっとB案よりも高いですよ。でも、ビンであることには変わらなくて、今後、何年かしてからビンをもた紙にするのかとかという議論がちょっとずつ先延ばしにするというか、そういうほうがいいのかなどというふうに素直に感じた次第なんですけれど。

紙パックの牛乳というのは、例えばビンの牛乳とどれぐらい量が違うのかというのは、もう検討に入られているんですか。

【事務局】 量は変わらないと思うんですが、先ほど言いましたように値段が大体、国立のビンが先ほど言いました税抜きで54円。学校給食会を通じる紙パックの牛乳が51.09銭です。

ですので、2円91銭、金額の違いがあります。これに当然、税もかかってくるわけなん

ですが、国立市の場合は、今お話があったように、平成17年に紙パックにしますよというふうに言われたものですから、これを継続するかどうかという部分で論争になった部分でございます。

平成16年のときに、国立市としては循環型社会を目指すということで、環境問題や食育の観点から、地球環境を守る大切さを学校給食を通じて子供たちにも伝えたいという願いがあったところでございます。そのためにできる限りビン牛乳を継続したいと考えておりました。

そのときの給食センターの運営審議会からの提案で、保護者のアンケートを実施し、そのまま継続するか否か、継続する場合には、給食費の改定がありますというアンケートをとらせていただきました。そうしましたら、ビン牛乳の継続、値上げもやむなしということを選んだ方が、保護者では85.6%でございました。

紙パックですと、リサイクル資源に活用する場合には、お子様たちに給食を食べた後に紙パックを開いていただいて、すすぎをしていただいて、それを乾かさないとリサイクルができない状態になっています。

それが実際に小学校の低学年の子にそれができるのか、あるいはこの限られた給食時間の中でやれるのか。例えば保護者の方や教職員の先生の方たちにその理解を得られるのかと、非常に難しいところでございます。

実は、今、ビン牛乳を使っているというのは4市か5市しかないんですけど、ほかは先ほど言いました大半が学校給食会を通じた紙パック牛乳になっています。この紙パック牛乳が、実は来年度から、今、業者さんが処理したものを回収してくれていたのを、ただでやってもらっていたんですけど、実は来年度からそれをもうしないというふうに言われて、今、結構、多摩地区の市町村では大問題になって、教育長会まで上がっているぐらいの話になっています。

要は、学乳協会というところは、これからは回収しない、それは各学校の責任において処理してくれというふうに言われているところで、国立はビン牛乳ですので関係ないんですけど、今、それが結構問題になっていまして、じゃあ、実際にその処理にかかる費用は誰が持つのか。当然、食材費じゃないですから、それは各市町村の一般会計から予算を取るのか、あるいはほかの県ではやっているそうなんですけど、子供たちが先ほど言いましたように、開いて洗って乾かす、これをやるということを勧めるのかというのが、今、問題になっているところでございます。

つい先週もその会議が、課長会がございました。結構、ほかの市は悩んでいるところで、結局、先ほど言いました51円9銭という部分なんですけど、これにもしかしたら各市は、どういう形になるのかわからないですけど、廃棄料としての負担がかかってくるということになるかもしれないです。

いずれにしましても学乳協会のほうは、やはり紙パックだと残乳、牛乳が残っているものとか、飲み切ったものとか全部混ざって捨てられてしまうので、実際にリサイクルができないということで、採算性がとれないということで、今のような話になったというのは聞いております。

以上です。

【西村委員】 ありがとうございます。小学校のときから、子供たちからよく給食時間が足りない、全部食べ切れないという話を聞いていたもので、これ以上、子供たちが給食時間の中に何か作業をしなければいけないというのは、あまり特じゃないな、なんていうふうに思いました。ありがとうございました。

【向井会長】 ありがとうございます。里道委員。

【里道委員】 現場から離れているので、ちょっと皆さんと切り口が違うかと思うんですけども、こちらにいる方たちは、いろいろ説明を見てどっちがどうだというのを受けて、改定後、Aのほうがいいのかなということもあると思うんですが、実際、学校に来ている保護者の皆様、そこまで熱心に内容まで見るかといったときに、この値上げ幅、Aだと年間5,000円近く上がってしまうとか、Bのほうはそうでもない。月額にして一般、私たちから見たら350円、250円の月額の値上げというのは大したことはないなと思うんですけども、ご家庭によっては、そう思わない方もいるかもしれないなと思います。

14年、値上げをしなかったというのはすごいなと思うんですけども、実際、過去、うち、子供たちを育てていて、学年が上がれば値段も上がるので、そういうときというか、値上げしたので、成長とともに上がるのに、一々そんなに重く思わなかったんですが、急にこれからこれだけ上がりますという幅が大きいと、やっぱりちょっと不満というか、あまり好ましく思わないご父兄の方もいるのかなとちょっと思いますので、私としては値上げ幅がやれるなら少ない幅で、スパンを短い期間で値段を改定していくほうがいいのかなとちょっと思ったりしました。

以上です。

【向井会長】 ありがとうございます。佐藤委員、お願いいたします。

【佐藤委員】 質問というか、コメントをさせていただきますと、やはり物価も上がっているということで予算不足で使いたい食材が買えないとか、例えば最近だと異常気象が多くて食材の価格が突然上がったりとか、そういったことが起きた際に、何か買えなくなってしまうとか、そういったことが起きてしまうと、やはり栄養面でデメリットが大きいので、ある程度、食材費に関しては余裕があったほうがいいかなと思いますので、値上げはやむを得ないのかなとちょっと思いました。

また、予算がやはり制限されていますと、メニューの選択の幅が狭くなって同じようなメニューばかりになったりとか、味つけも制限されたりとかということで、逆に給食を残す残食が増えたりとか、そういうところにつながるというのちょっと懸念されるころなので、食材の種類が減って食育面でもマイナスになりますし、残食が増えてしまう可能性も増えるというところで、ある程度、余裕を持った食材費の確保というのは必要なかなと思いました。

ただ、値上げということになりますので、保護者さんの理解を得るといような努力をもう少しされたらいいのかなと思います。特に給食というのは、栄養バランスも考えられていますし、メニュー表を見てもわかるとおり、食材もかなり多様な食材が豊富に使われていますので、そういったよい面をもっとアピールをして、情報発信とセットで値上げをお願いします。今回の値上げの理由と給食のよさというところを、もうちょっと力を入れて情報発信して、それとセットで値上げしていくのがいいかなと思います。

ちょっとAがいいのか、Bがいいのかというのは、特に判断はつかないですけれども、パターンAであっても、一応、その算定の根拠がありますので、理解をお願いするというような説明をして理解をしていただくということが可能であれば、Aでもいいのかなと思いました。

以上です。

【向井会長】 ありがとうございました。山崎委員、お願いいたします。

【山崎委員】 二中の山崎です。よろしくお願いします。

改定パターンAとBで金額が違うんですけれども、今回、世間的に消費税10%ということもあって、これに伴って改定したほうが、私はいいいのかなと思います。

子供が3人いるので、金額が上がると家庭のほうには少しでも支障が来ると思うんですけれども、何年後かにまた上がるんだったら、今、ちょうど上げてもらってやったほうが、私はいいいのかなと思います。

また2年後、3年後に検討するんでしたら、今、上げて、ちょうど消費税も上がるということをやったほうが、保護者としてはああそうだよねというふうに納得する部分も多少はあるのかなと思います。

それによって給食の内容が少しでもよくなって、子供たちが喜んでいけるのならいいのかなと思います。

【向井会長】 ありがとうございます。それでは、上野委員、お願いします。

【上野委員】 僕は、今、二中で教員をしているんですけども、まず先ほど給食時間のお話がありましたので、僕が見ている上で、これ以上、何か給食の時間にやるのは無理かなというのが正直なところです。

一刻も早く外に出て遊びたいという顔をしている子たちがたくさんいまして、やはり女の子なんかは時間内に食べ終わらず、休み時間も食べているという子たちも何人もいるので、やはりここで何かが入るといのはきついのかなというのが正直な感想です。

給食費に関してですけども、先ほどからもお話があったように、やはりご家庭の事情をお持ちの方もたくさんいらっしゃるのかなというのを学校に、現場に出て思いますので、明日配布予定の意見の用紙がありましたけれども、なるべく手軽に意見をいただいたほうがいいのかなという気がしています。

今の資料でしたら、メールであったりとか、窓口を持参という方法が提案されているんですけども、学校を通してでもちょっとした手紙みたいな感じで子供に預けて、それが学校を通して主任に来て、それが交換便等でこっちに来るとい、なるべくご家庭に負担のない楽な方法で、少しでもご意見を聞いていただいて、いろいろなご家庭の意見を踏まえた上で審議していくのがいいのかなというふうに、僕個人としては感じております。

以上です。

【向井会長】 ありがとうございます。伊東委員、お願いします。

【伊東委員】 国立第八小学校の伊東です。よろしくをお願いします。

まず1つ質問なんですけれども、いただいた資料と別に、以前にも配られた国立の学校給食のほうで予算の内訳というか、会計の内訳が書いてあるところがありまして、15ページになるんですが、1食当たりの単価の中で市の負担分が半分以上ということ、私はこの資料を見て初めて知ったんですけども、値上げをした場合というのは、保護者の方の負担分だけが純粋に増えるのか、それとも、市の負担のほうも少し上がるのか、どちらなのかなということをお聞きしたいと思います。

【事務局】 学校給食費は、その100%を食材費のみに使いますので、市のほうの人件費とか管理運営費がございませぬけど、これが上がる、下がるのとは全く関係がございませぬ。100%食材費ですので、牛乳も含めたものになりますので、よろしくお願ひします。

【伊東委員】 ありがとうございます。ということは、保護者の負担の分だけが値上がりするということ。ありがとうございます。

パターンAかパターンBかということなんですけれども、皆さんのご意見をいろいろ伺って、どれもそうだなと思って聞かせていただいたのですが、やはり先ほど里道委員もおっしゃっていたように、この話を聞いていた方と何も聞いていない方とで印象はかなり違ってくると思うので、やはり段階的に上げていくほうが現実的なのかなと、私としては思いました。

もしこの先、また審議が必要になって、また同じような話し合いがされるのは無駄かなと思いますので、この審議会の中である程度、今後、例えばまた消費税が上がったりとか、物価が何%以上上がったらまた改定をするとか、ある程度、決めておいて、その時期が来たらまた値上げをするということにしておけばスムーズかなというふうに思いました。

あと、学校側からしてなんですけれども、八小はお恥ずかしながら市内でも残菜が多いほうでして、教職員としては、一生懸命指導はしているつもりなんですけれども、どうしても残菜が、今、多い状況になっています。

量が多くて残すというよりは、見ていると好き嫌いというか、口に合わないといって、あまり食べないで残してしまう子も多いように見受けられますので、値上げをして保護者の方の負担は多くなるかもしれないんですけども、質的な向上というか、子供たちの大好きなお肉が増えたりとか、いろいろな工夫をして、今も十分工夫してくださっているんですけども、より給食時間が楽しみになるような給食になると、残菜も減って結果的にはよくなるんじゃないかなというふうに思いますので、前向きな改定ということで保護者の皆さんにもご理解いただけるようになるとありがたいかなと思います。

以上です。

【向井会長】 ありがとうございます。全ての今日ご出席の委員の方からご意見、ご質問も含めていただきました。

まだ今日、決定するわけではないので、この議題については、また引き続き議論していくということになると思います。

それでは、ここで今後の進め方について事務局から発言を求めます。

【事務局】 ただいま皆様からの、現時点とはなりますが、いろいろなお考え等をご発言いただきました。

事務局といたしましては、今、いただいたご発言の要点を文書にまとめ、次回の運営審議会開催に当たって事前に配付いたしますので、そこでまたご審議いただければと存じます。

また、次回の運営審議会前には、保護者や市民の皆様からのご意見、ご要望等がパブリックコメント等で寄せられているかと思しますので、こちらも事前に配付いたします。

今回のご議論、また、パブリックコメント等に寄せられたご意見を総合的に勘案していただき、9月24日に開催予定の次回の運営審議会でいま一度ご審議いただき、会議の最後に答申の方向性を決定していただければと考えております。

よろしく願いいたします。以上です。

【向井会長】 ただいまの事務局からの説明のとおり、次回の審議会において引き続き審議をし、方向性を決定していきたいと思っております。

ほかに何か、今の議題1についてご意見等がありますでしょうか。村上委員、お願いいたします。

【村上委員】 すみません、五小の村上です。

今、皆さんの意見を聞いて、ほんとうに私もなるほどなと思うことがたくさんあったんですが、先ほどビンの場合は牛乳を紙パックに戻しての案で、少し安い値上げ幅、Aはビンのままで高い値上げ幅、このAかBかだけで選択していくこととなるのですか。

今、話を聞いていると、値上げ幅は少ないほうが良いという意見もありましたよね。段階的に上げていくほうが良い。だけど、ビン牛乳のままじゃないと、紙パックに戻してしまうと、子供たちのそういう作業をする時間がないみたいな意見も、今、あって、そうなると、A、B、Cが必要になってくるんじゃないかと、値上げ幅が少なくてビンのままという、その3パターン目が必要になってくるのではないかと、単純に私は、今、聞いていて思ったんですが、それは今後ですかね。

【事務局】 もしかしたらご説明が足りなかったのかもしれないのですが、今回、お示ししているパターンAもパターンBもビン牛乳の場合の金額になります。紙パックは全く考えていません。今のところ国立市のほうは、紙パックを使っていこうということは考えておりませんので。

【村上委員】 わかりました。済みません、私のちょっと勘違いだったみたいです。あり

がとうございます。

【向井会長】 それでは、ほかにありますでしょうか。井原委員、お願いします。

【井原委員】 二小の井原です。またビン牛乳のことになるんですけど、Bには牛乳補助金カット分0.8%が追加されているのですが、Aのほうには入っていないんですけど、これはこの7.9%の中に入っているということなんですか。

【事務局】 平成17年のときは補助金自体がなかった。平成26年は、それだけあったので、それを加味しているということで理解していただければと思います。

【井原委員】 何年から補助金がついていたのですか。

【事務局】 平成26年から平成29年までです。

【井原委員】 その短期間しかついていたんですか。

【事務局】 はい。国がカットしてしまいました。

【井原委員】 そうですか。ありがとうございました。

【向井会長】 ほかにございますか。久保委員、お願いします。

【久保委員】 第七小学校、久保です。

先ほどご意見もあったように、給食費の改定については保護者の皆様からのご理解を広くいただくためにも、やっぱりアピールの方法ですとか、こういった理由で値上げをせざるを得ないというところをアピールしていく必要があると私も思うんですけども、それに関して何か取り組むことはありますか。

【事務局】 今、現在、ホームページと各公民館とか図書館とかにも実際にこの改定案を閲覧できるような形になっていまして、パブリックコメントを9月6日までいただければということで、そういう閲覧の場所もこういうところにありますというのは、市報とかにも載っているところでございます。

あわせて、皆様に事前に配布させていただきましたお知らせ文ですね。各保護者に、こういうことをやっていますので、ご意見をいただけますかというのを、もし今日、事前に配布したもので明日の日付になっていますが、まだコピーしていません。

というのは、皆様から何かこういうところを直したほうがいいよというご発言があるかなという分も勘案して、まだ待っている状態ですので、今日、何かそういったご意見とか、これをもっとアピールしたほうがいいよとか、この文を入れたほうがいいよということがあれば、それを加えさせていただいて、すぐに印刷して明日やろうかと思っていますので、逆に何かいただければと思います。

【久保委員】 ご回答ありがとうございます。とりあえず、このままだとちょっと伝わらないかなという気はするので、今日、今、ぐるっとお話があったとおりのことで、もうちょっと伝わりやすい言葉とかを選んで内容を協議する必要があるかなと思いました。

【向井会長】 よろしいでしょうか。今の学校給食費の改定についての保護者向けの文書で、何かご助言いただければ、この場でこれを入れてほしいと。井原委員、お願いします。

【井原委員】 二小の井原です。何度もすみません。私は、このパターンAとパターンBの給食のイメージがついているとわかりやすいかなと思いました。写真なり、このメニューなり、今はこういうもので、値上げするとこういうメニューができますよとなると、子供と見てこれだったら食べられるねとか、こうなってほしいなという子供から意見があると、じゃあ、まあ、値上げもしようがないねというふうに親も思えるかなと思います。

今の給食よりも子供たちが食べやすいメニューというか、親しみやすいメニューな感じがするので、値上げしたらこう充実しますよというアピールには、写真や給食のメニューがあると伝わるのかなと思います。

【事務局】 ありがとうございます。ちょっと考えるところがありまして、写真があまりにもイメージ先行し過ぎてしまうと、あくまでもイメージなので、これが出るというわけでもないのなかなか難しいところではあるかなとは思っているところでございます。

ですので、皆様にお示しした改定案の写真も、あくまでもイメージですと書いてあるという部分ですので、ちょっとそこはここで考えさせていただいて、つけられるものは、確かにおっしゃるとおり、目で見えてわかるものですので、大変効果的だと思います。

実際、今、ホームページに載っているものは、皆さんにお示ししたこの改定案ですので、この写真も載っているというのは、ホームページにも載っているところでございます。

こういうのを活用するかどうか、慎重に検討していきたいと思いますので、よろしく願いします。

【井原委員】 例えば載せられないなら、ホームページに載っていますよとか、児童館にありますよというのをお知らせいただくとわかるかなと。私も知らなかったもので、市報には、この改定します、パブリックコメントをいただきますという文章だけが載っていたと思うんですね。

なので、ここに行けばこういう写真がありますよというお知らせが1行でもあると、見ようかなという方もいらっしゃるかなと思います。

【事務局】 ありがとうございます。実は、皆様にお配りしました参考資料のところ、

通常よりやや下目のところに、ホームページに詳細を掲載しておりますと書いてあるんですけど、これをもうちょっと太字にするなど、目立つような形で、ぜひそれを見てくださいと付け加えさせていただければと思いますので、ありがとうございます。

【向井会長】 ありがとうございます。アドレスを書いておくとか、そういうこともできると思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、よろしいでしょうか。特になければ次に移ります。

議題2のその他のところですが、委員の皆様から何かありますでしょうか。

それでは、事務局のほうで何かありますでしょうか。

【事務局】 今回は、臨時会ですので、特段、ご説明、ご報告するような事務連絡等はありません。

【向井会長】 では、本日の議題は全て終了いたしました。次回は、令和元年9月24日火曜日、午後2時からとなります。AかBの方向性を決めていくということになりますので、どうぞよろしく願いいたします。

では、これで第2回学校給食センター運営審議会を終了いたします。

皆様、お忙しい中、ありがとうございました。

— 了 —